

■古賀精里 儒学者、藩臣。初の昌平黌教授で、“寛政異学の禁”推進した三博士の一人。

こがせいり

1750= 肥前国西古賀村で、佐賀藩独特の手明鐘身分の下級藩士古賀忠能の子に生まれる。先祖は中国からの帰化人で、本姓は劉氏。転々として筑後の三潞郡古賀村に住んだことから古賀氏を名乗った。

徳川吉宗没・1751= 1歳 :

大武政治批判1759= 9歳 :

大岡忠光没・1760=10歳 :

周囲が学問をさげすむような雰囲気の中、幼い頃から学問が好きだったが、学問に熱中して体を悪くすることを怖れる両親から、書を読むことを禁じられ、家人の寝静まった夜起き、衣で行灯を掩って勉強。

久留米藩工事1768=18歳 :

1770=20歳 : 鍋島治茂が藩主になり、藩政改革に取り組み始めたことで、状況は一変し、

田沼意次老中1772=22歳 :

解体新書・1774=24歳 : \*学問を盛んにしようと藩校設立を企図した藩主に抜擢され、京都・大坂への遊学を命じられる。

黄表紙始・1775=25歳 : 大坂に到着、半年後京都に向かい、福井小車、西依成斎に学んで、陽明学を信奉するようになるが、この頃、結婚し、

1777=27歳 : 長男毅堂が誕生。  
船蝦夷来・1778=28歳 : 京都から大坂に移り、尾藤二洲・頼春水と出会い討論、“寛政朱子学派”に帰属、朱子学復興をめざす。

源内獄中死・1779=29歳 : 帰藩すると、

1780=30歳 : 父が現役のまま、手明鐘頭格、請役相談格となり、藩政に参加して意見を述べ得る異例の抜擢、

1781=31歳 : この年、頼春水が広島藩に登用される。世禄制度の改革を提起。\*藩校(弘道館)の設立を主導して、教授(学長)に就任、学規学則を定め基礎を確立。

天明大飢饉始1782=32歳 : 不正を働いた藩士の処罰の仕方に異議を唱えて、諸職を辞めさせられ、(弘道館)教授専任となる。

田沼意次失脚1786=36歳 :

寛政改革始・1787=37歳 : この年、尾藤二洲が「正学指掌」を刊行。

1788=38歳 : 三男?庵が誕生。

初の横綱・1789=39歳 : 支藩蓮池氏のために、施政治民の要を論じた「十事解」を著す。

異学の禁・1790=40歳 : この年、幕府が林家に異学の禁を通達、林家の家塾が幕府直轄の学問所(昌平黌)となり、

混浴禁止・1791=41歳 : この年、尾藤二洲が昌平黌教授に登用される。藩主の江戸参勤に随従し、

フクスマン来日・1792=42歳 : 幕命で、(昌平黌)で講義した後、帰藩。

松平定信引退1793=43歳 :

ワシタ`正月・1794=44歳 : 父が死去し、手明鐘組頭となる。

写楽・1795=45歳 : 実績が認められて幕府から召喚されると、周囲に困惑している姿勢見せるべく、様々な理由で断わるも、

ポルトガル来航・1796=46歳 : \*ついに藩命で、三男?庵を伴って江戸に移り、(昌平黌)教授となる。先に召し出された柴野栗山・尾藤二洲と共に、朱子学を鼓吹、栗山・二洲・精里の3人は“寛政の三博士”と呼ばれて尊敬される。

伊能測量始・1800=50歳 : 教授手当として15人扶持。

イザワ来航・1804=54歳 :

船狼藉・1807=57歳 : この年、エトロフ島などでのロシア人による襲撃事件があり、幕府に対する質問状を残して去ったが、その質問状への回答と見られる「擬登謀」を書くなど、海防論へ関心を向けるようになる。

浮世風呂・1809=59歳 : この年、三男?庵が儒者見習を命ぜられ、「擬極論時事封事」を著す。

1810=60歳 : 長年の勤労に役料百俵。幕府財政が逼迫して、長く朝鮮通信使を江戸に迎えることができずにいたため、

ゴロブニ拿捕 1811=61歳 : 苦肉の策として易地聘礼となり、林大学頭述斎と対馬に出張、朝鮮信使と応接し、学徳を敬服される。

浮世床・1813=63歳 : 永年勤続の褒美で“布衣”に列する。尾藤二洲が死去し、

伊能測量終・1816=66歳 : この年、三男?庵に子謹堂(茶溪)が誕生。頼春水も死去するのに続くように、

杉田玄白没・1817=67歳 : \*没した。儒葬により江戸大塚の先儒墓地に葬られ。三男?庵が御儒者に転じるが、親子2代で昌平黌教授となったのは他に例が無い。

「大学章句纂釈」「大学諸説弁誤」「極論時事封事」「経済文録」「軟渉偶語」。